清水 美花（しみず みか）さん（29）
（左）

平成27年4月着任
担当地区
〇山根、大川目、山形

村塚 純子（むらつか じゅんこ）さん（40）
（右）

平成28年4月着任
担当地区
〇小久慈、夏井

■ふるさと未来づくり事業

久慈市では「これからも住み続けたいまち・戻って来たいと思うまちづくり」をスローガンに、地域住民が主役となる地域づくりへの意識の醸成などを目的に「ふるさと未来づくり事業」に取り組んでいます。平成27年度から山根、山形、大川目地区、28年度には小久慈、夏井地区がスタートしました。

ふるさと未来づくり事業では、まずはじめに地域住民同士で地域のお宝や課題を見つめ直すことを目的とした「ふるさと点検」を行っています。

■各地区の活動内容・魅力紹介

山根地区は自然・食・歴史・交流の４チームの活動がそれぞれ進んでいます。大川目地区はまちづくり協議会のみなさんと、大川目の地域づくりについて丁寧に議論を重ねているところです。山形地区ではＰＴＡを対象とした「夢語り」というワークショップを開催し、若者、ヨソモノ目線を生かしたアイデアがたくさん出されました。小久慈地区はたくさんのお宝があり魅力のある地区です。ポンポンダムやたくさんの神社を回ってみました。とても素敵で市内の皆さんにも足を運んでほしいところです。夏井地区は川代交流館で行っているカボチャコンクールにびっくり！収穫祭でズラッとならんだカボチャはすごい迫力です。

■集落支援員の活動

地域の皆さんが描く未来像を実現していくためのお手伝いをすることが私たち集落支援員の仕事です。ワークショップの開催や、活動の実践を通してサポートしていきます。町内会の皆様、ご家族、ご友人をお誘いあわせのうえ、ぜひ未来づくり事業へご参加いただきたいです！お待ちしております。

木村 圭次（きむら けいじ）さん（48）
京都府京都市出身

平成28年4月着任

活動の概要
〇侍浜町の地域づくりに関する活動全般

〇侍浜振興協議会、はまおど塾の活動

■協力隊になったきっかけ

「あまちゃん」で有名になった久慈市に行ってみたいから始まり、何度か訪れて、豊かな自然と人の温かさに魅了されました。観光客やＫターン者が増えるよう戦力となり貢献したいと考え応募しました。

■これまでの活動内容

本年度の４月から私は地域おこし協力隊の２年目に入りました。侍浜での取り組み概要は地域づくりに関する活動全般となっており、着任以来「地域との交流で地域住民の意識を変える」ことを第一に考え「地域の方ととことん交流し、とことん話す」を目標にやってきております。久慈市全体の課題はやはり人口減少と少子化です。今後いかにこのカーブを緩めるかが大きな課題とされています。侍浜町の人も同様にこの現状を何とかしたい、何とかせねばと考えておられます。

■主役は地域住民

自分たちの地域は自分たちで作っていくという意識を持ってもらうことです。この町に残りずっと住みたいと思う気持ちが醸成される環境づくり。伝統や文化を子どもたちに伝え楽しい思い出を残すことで地元愛を育み、住民が地域のことに前向きな気持ちになっていくという雰囲気作りが大切であると考えています。

今年度も皆さんと一緒に地域づくりを取り組み、課題解決に向けビジョンを共有していきます。そして協力隊を卒業後、地域の皆さんから木村という人が来ていて、あんなことを言っていた、こんなことをしていたと思い返してもらい、地域の皆さんが継続して地域づくりをされたら、協力隊としての成功だと思っています。侍浜町に少し手を加えて「すきな侍浜町を、すてきな侍浜町」にしていきます。

志水 彩子（しみず あやこ）さん（32）
東京都杉並区出身

平成28年4月着任

活動の概要
〇短角牛を活用した新商品の開発
〇平庭高原を活用したヘルスツーリズム企画
〇害獣駆除、狩猟したシカなどの有効活用方研究

■協力隊になったきっかけ

私は学生時代から旅行が好きで、国内外を問わずさまざまな土地に行きました。学生時代に山形町出身の友人の家に遊びに行ったり、子どものキャンプの手伝いをさせていただき、その田舎っぷりにびっくりしたのと同時に、田舎のすばらしさを初めて教えてもらいました。今度はその素晴らしさを少しでも伝えられる側になれればと思い協力隊に応募しました。

■これまでの活動内容と今後の計画

私はおもに山形町で活動しています。昨年度は山形の魅力ある資源を使った商品開発に取り組み、短角牛のビーフジャーキー、タオル、Ｔシャツを開発しました。今後は販路の拡大やＰＲ、レシピの開発、レシピ提供先の開拓を進めていきます。平庭高原を活用したヘルスツーリズム企画にも取り組みたいと思っています。女子力ＵＰやスポーツ、食などの平庭高原を最大限活用したツアーメニューとなるよう考えています。

また、猟友会に所属し害獣駆除を行うとともに、捕獲鳥獣をどう有効活用できるか、企画を考えており、新しい山形の魅力の一つになればと思っています。

■山形町のシーズを形に

山形町最大のシーズ（※）は「短角牛」と「シラカバ」。シーズを生かし、地元の農家・企業が儲かる商品を開発したいです。新商品を作るだけでなく、既存商品もパッケージを変更することで売り上げが向上するものもあると思っています。山形町内での六次産業化やイベント、ツアーのブランド化により魅力を向上させていければと考えています。任期終了後のことは、１年目ということもあり現在模索中ですが、さまざまなことに取り組み、久慈市の魅力を伝えていきたいです。

※**シーズ**…新たな商品の開発に使われる特別な技術や材料などのこと

前田 比奈（まえだ ひな）さん（25）
千葉県茂原市出身

平成28年4月着任

活動の概要
〇小袖海岸での海女素潜り実演

〇海女文化の研究、普及啓発・保存活動

〇全国の海女さんとの情報交換

■協力隊になったきっかけ

「あまちゃん」を見てから海女の仕事に興味を持つようになりました。「あまちゃん」にたくさんの元気をもらったので、今度は自分が久慈市に恩返しをする番だと思い協力隊に応募しました。

■これまでの活動内容

岩手県久慈市にやってきて２年目になりました。北限の海女に憧れたのですが、私はそもそも泳ぐことができなかったので、スイミングスクールで泳ぎを教わることが最初の活動でした。潜水の練習のため種市高校にも通い特訓を重ねました。特訓の甲斐あって、７月から９月までの期間、小袖海岸で観光海女として活動することができました。初めて潜った小袖の海は、とても冷たく本当に大変でしたが、自分でとったウニはすごく甘く、おいしさに感動したのを今も覚えています。10月以降は地元の海女さんと一緒に全国海女サミットへの参加や、石川県輪島市、三重県鳥羽市といった他地域の海女と交流させていただきました。

■海女文化の保存・普及

海女文化は久慈の貴重な財産であり、保存しなければなりません。海女さんを増やすために必要なことは、一人でも多くの人に海女さんの魅力を知ってもらうことです。海女＝「あまちゃん」ではなく、長い歴史を持つ素晴らしい職業、文化であることを知っていただきたいです。海女文化を勉強することはもちろんですが、私が海女さんをすることによって、若い層に楽しさや魅力を伝えられると思っています。任期終了後のことはまだわかりませんが、どういったかたちでも海女は続けていきたいと思っています。これからも久慈市を盛り上げていきますので、よろしくお願いします。